

【小城市】 校務DX計画

【小城市の現状】

令和5年度に実施された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（確定値）が令和6年3月29日に出された。それによると、小城市では、「職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れているか」について、75.0%の学校が「取り入れている」とし、「学級・学校経営に有効な教育データ等が必要な職位に応じてアクセス権限が設定されているとともに、活用しやすいように整理され閲覧できるか」という問いに100%が「できる」と回答している。また、「職員会議等の資料をクラウド上で共有し、ペーパーレス化しているか」の問いに、「完全にペーパーレス化している」と「半分以上している」を合わせると50%となった。また、校務支援システムへの名簿情報の入力については、教育委員会がCSV形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録している。

【課題】

一方で、「職員会議等の資料をクラウド上で共有し、ペーパーレス化しているか」の問いに対し、半数の学校が「半分未満」、「全く実施していない」と回答している。その背景として、教職員が使用している校務用端末のスペックや、紙を印刷したものの方が確認しやすいという意見が挙げられている。また、保護者との連絡ツールとしてクラウドツールを活用しているが、一部電話対応も発生している。また、令和5年度より1人1台端末の持ち帰りを推奨しているが、持ち帰りができていない学校が多くみられる。定期的に持ち帰りをを行うことで、デジタル教材を用いた宿題を実施でき、業務の効率化や、ペーパーレス化につながると考えられる。また、「業務にFAXを使用していますか」という問いに「使用している」と91.7%の学校が回答しており、「押印・署名が必要な書類はありますか」の問いに83.3%の学校が「ある」と回答している。また、小城市で導入している現行の校務システムは、オンプレミス型運用をしており、令和11年度までの運用予定となっている。次期校務システムの導入に向け、校務系・学習系のネットワークの統合や、クラウド環境での校務の実施についての検討が課題となる。

【今後の取組方針】

- 職員会議等でのペーパーレス化については、校務用端末を更新していき、スペックを向上させていくことで、業務の効率化が図れると考えられる。更新を行った端末を使用している教職員については、クラウド間での共有にて資料を確認することを推奨していく。
- 保護者との連絡ツールとしてクラウドツールを活用している中で、一部電話対応も発生しているため、クラウドツールを利用するよう再度周知し、推進していく。
- デジタル教材を用いた宿題の実施については、1人1台端末の持ち帰りに対し、教職員・児童生徒ともに順応していくため学期の中で定期的に持ち帰えることを推奨していく。持ち帰りの機会を増やすことで、用紙の削減においても推進していきたい。

- FAXについては、原則使用しない方針を固め、学校間や、教育委員会とのやり取りについては電子メールでのやり取りを継続して行う。また、業者等とのやり取りについても、電子メールで行えるものを精査し、メールを使ったやり取りを推進していく。
- 校務支援システムへの名簿情報の入力については、CSV形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録しているため、今後も個人情報ファイルの取り扱いに留意しながら継続して行っていく。
- 押印・署名については、改めて学校へ周知を行い、各種調査に関する書類や証明書等、押印・署名の必要性を再検討し、削減を図られるものについては廃止をしていく努力を行う。
- 次世代の校務システムの導入に向け、ゼロトラストセキュリティの考え方を踏まえたセキュリティ対策を十分に講じた上で、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、文部科学省が推奨している校務系・学習系ネットワークの統合やクラウド環境での実施等を視野に入れ調査研究を進める。